

教えて! Q&A

今日のテーマ 日本

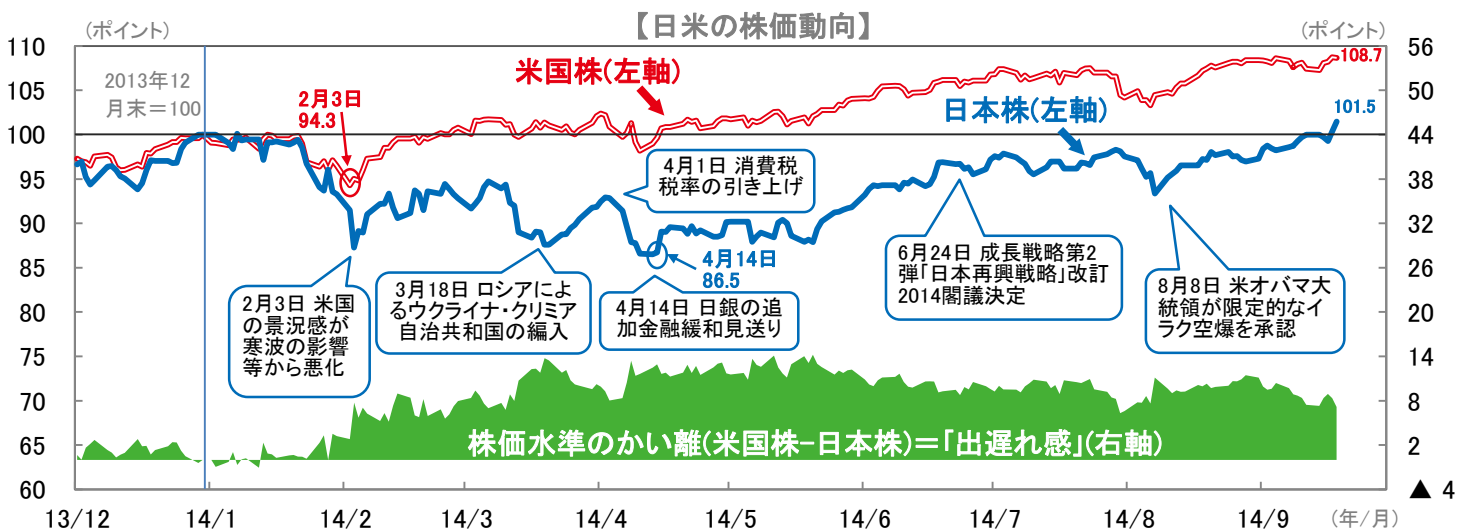
日本株式市場 3回シリーズ 第2回

Q 日本株の「出遅れ感」は解消しますか？

A 年初来安値からの上昇率は既に米国を上回っています。米欧との「株価水準のかい離」=「出遅れ感」は、円安と企業業績の改善などを背景に、今後徐々に解消へ。

■日本株は年前半に大きく下落したことで、米国株や欧州株などの株価と大きくかけ離れた水準で推移しています。日本株は、9月19日ようやく年初来高値を更新しましたが、米国株などとのかい離は埋まっていません。

■「出遅れ感」を年初来安値からの「上昇率」で見ると、日本株は4月14日から9月19日まで約17%上昇し、米国株の2月3日からの約15%を上回りました。「上昇率」で見た「出遅れ感」は足元では解消していると思われます。では「株価水準のかい離」=「出遅れ感」は解消に向かうのでしょうか？



(注)データ期間は2013年12月2日から2014年9月19日。2013年12月末=100として指数化。指数はMSCI、現地通貨ベース。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 円安による企業業績改善期待などから「出遅れ感」は徐々に解消へ

■日本株が出遅れた要因は、世界景気の悪化懸念や地政学リスクの高まり、消費税増税後の不透明感の強まり、また、それらを背景とした円高の進行でした。足元では、米国金利の上昇期待などから一時1ドル=109円台と2008年8月以来の円安水準となり、変化が出てきました。

■2013年12月末を100とした9月19日の株価水準は、日本株が101.5で、米国株の108.7と大きくかい離しています。しかし、円安進行を背景に、企業業績の改善期待が高まる中、割安感が始まりました。今後は、「株価水準」としての「出遅れ感」も徐々に解消へ向かうと期待されます。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。